

令和7年9月13日

創立記念日を迎えるにあたって

大阪府立中央聴覚支援学校
校長 吉田 伸哉

本年9月13日、本校は創立125周年を迎えます。

本校は明治33（1900）年9月13日、実業家・五代五兵衛翁のご尽力により、私立大阪盲啞院として現在の大阪市中央区本町に開学しました。初代校長には、我が国の盲啞教育の先駆者であり、京都盲啞院院長を務めた古河太四郎を迎えました。以来、自然災害や戦災による幾度もの移転を経て、現在は難波宮跡にほど近い上町の地に学び舎を構えています。

本校の長い歴史の中には、きこえない・きこえにくい子どもたちのために通い続けた親子や教職員、そして関係機関の皆さまによる数々の物語があります。多くの卒業生が「市ろう」（中央聴覚支援学校）でことばを獲得し、学びを深め、志を抱いて巣立っていきました。

口話教育が日本中を席卷する時代にあっても、本校は手話の必要性を訴え、子どものきこえの特性に応じたコミュニケーション方法による教育の重要性を主張してきました。この「適性教育」の理念は、「ORA システム」として、現在の多様な教育の在り方にも通じるものです。平成22（2010）年の創立110周年を機に制定されたスローガン「手話とともに未来へ」に込められた思いは、本年6月に施行された「手話言語施策推進法」により、さらに力強いものとなりました。

大阪・関西万博も残すところ1か月となり、11月には東京2025デフリンピックがいよいよ開催されます。本校でことばを習得し、グローバルな視野を持った子どもたちが、将来、地域や世界で活躍する人材へと成長していくことを信じ、保護者や関係者の皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。今後とも、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

